

COMSA開発プロジェクトへの参画について

当社は、2017年8月3日のプレスリリースの通り、テックビューロ株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役：朝山 貴生、以下「テックビューロ」）のICOソリューションCOMSAの開発パートナーを務めております。テックビューロはCOMSAプロジェクトの第1弾として、10月2日より自らのトークンセールを実施し、本トークンセールは11月6日まで継続する予定になってはいますが、現在、既に8,000万USドルを超える調達額を達成しています。COMSA自身のトークンセールによって売り出されたCMSトークンは、今後、COMSAプラットフォームにてICOを実施する各プロジェクトにおいて、払込手段の一つとして使用されることとなります。

当社は現在、COMSAの開発プロジェクトに参画し、CMSトークン発行及び管理における、Ethereum（イーサリアム）上のコントラクト開発を中心に携わっております。COMSA自身のトークンセールの成否は、現在、世界で唯一、仮想通貨法（改正資金決済法）が成立施行されている我が国日本において、今後のICOマーケット成長を占う重要な試金石になると考えております。当社としましては、市場成長の重要な役割を担うべく、引き続きCOMSAの開発プロジェクトに積極的な関与をしていく方針です。さらに、今回培ったコントラクト開発の応用研究やEthereum以外のブロックチェーン技術の開発や研究につきましても継続的に行って参ります。

また、COMSAには、テックビューロを中心として設立されたICO協議会があり、COMSAソリューションのコンサルテーションやサポート、ICOプロジェクトへの誘致の他、今後のICOや同業界についての協議を行っております。当社の代表取締役会長（CEO）八木 隆二はその協議会員として参画しており、テックビューロとの協業をますます推進するとともに、業界の健全な発展と成長に貢献して参ります。

「COMSA」とは ～2017年8月3日付、テックビューロ プレスリリースより～

世界のブロックチェーン業界では、2017年6月の時点で過去12ヶ月間のICO（Initial Coin Offering -仮想通貨発行による資金調達手法）による資金調達総額が、ベンチャーキャピタルによるそれを大幅に上回りました。そのような中、7月25日に米SECがThe DAOが金融商品に該当すると発表し、ICOの法的なポジションも国際的にクリアになることが予想され、ICOを実施する企業にはますます綿密な設計が必要となります。一方、多くの企業がICOを希望するものの、それ以前にブロックチェーン技術そのものの導入には様々な問題が付きまといま。その一つとしては、暗号通貨の法定通貨に対するボラティリティであり、それが会計上や監査上の様々な煩雑さを引き起こしています。そしてその期待とニーズに、既存のソリューションが対応しきれなかったことが最も大きな障壁となっていました。

それら課題をまとめて解決すべく、「COMSA」は企業のICOによる資金調達と、既存アセットのトークン化、Zaif取引所、そしてmijinプライベートブロックチェーンによる内部勘定技術をワンストップのソリューションとして提供し、実ビジネスへのブロックチェーン技術導入を一からサポートいたします。



COMSA公式ウェブサイト：<https://comsa.io/>

以上

＜本件に関するお問い合わせ先＞
株式会社カイカ
TEL 03-5657-3000